

この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
正しくお使いいただくためにこの説明書をよくお読みいただき、いつでもご覧になれるよう保管してください。

- 本説明書内の記号説明 安全にお使いいただくために必ずお読みください。

⚠ 注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が障害を負うまたは物的損害の発生が想定される内容を示します。

⚠ 注意

! 点検・お手入れの際は安全に注意をはらってください。
製品の扉の下部に頭が当たったり、製品につまづくような場所や高さに設置しないでください。

重要事項

海岸地域・工業地帯・鉄道沿線・温泉地帯・鉄工所近傍・建設工事現場近傍・自動車排ガスの影響の高い地域など、金属の耐食性において不利な環境においては、もらい錆びの生じるおそれが高くなります。以下の注意事項を必ずお守りくださいますよう、お願いします。

お取り扱い上のご注意

- 本製品は耐食性に優れた素材（ステンレス鋼）を使用していますが、設置状況などによってはもらい錆びを起こすおそれがあります。製品が汚れてきましたら、以下のお手入れ方法などにより必ず清掃をお願いします。
- 製品や部品の固定にビス等が使われている場合は、緩みや不都合な「ガタツキ」等がないかどうか定期的に点検してください。
- 郵便物は早めにお取り出しください。郵便物がたまり、詰め込みすぎると動作不良や破損の原因となります。できるだけ早めにお取り出しください。
- ダイヤル錠に物をぶら下げないでください。破損の原因となります。
- 本製品は通常郵便物の受け取りを目的としております。貴重品の受け取り、鍵の保管、生ものの受け取りには使用しないでください。
- 本製品は防滴仕様で屋外での使用も可能です。ただし、台風などの強風時には水が入ることがありますので早めにお取り出しください。

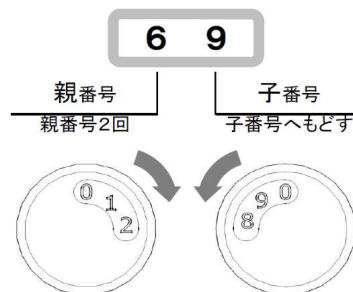
<ダイヤル錠について>

○開錠する場合

ダイヤルを右に回して数字を2回親番号に合わせ、次に左へもどして子番号に合わせると開錠します。

○施錠する場合

扉を閉め、ダイヤルを左右どちらかへ1回転以上回してください。
(1回転以上回さないと子番号に合わせるだけで扉が開く場合があります。)



製品のお手入れ方法

- ①水で薄めた中性洗剤を柔らかい布につけ、表面の汚れをふき取ってください。市販のステンレス清掃剤も使用できます。
使用後に洗剤が残らないよう水拭きし、その後に乾拭きしてください。
- ②金属製のブラシや研磨剤入りの薬品は、傷の原因となりますので使用しないでください。また、焼付塗装が施されている場合、シンナー等の溶剤が付着しますと塗装がはがれたり変色したりすることがあります。十分にご注意ください。

株式会社 大佐

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里6-39-14

TEL 03-3806-5101 / FAX 03-3806-5105

本製品を施工される方は裏面取扱説明書と共に必ずお読みいただき、工事完了後はお客様にお渡しください。



重要事項

工事期間中は、「もらい錆」等不具合の原因になりますので、工事にもなう粉塵や鉄粉等が付着しないようご注意ください。

施工上のご注意

- 本製品施工時の運搬など、お取り扱いには十分ご注意ください。破損、変形による錆や施工不良の原因となります。
- 焼付塗装されている製品は塗装面に有機溶剤・化学薬品が付着すると剥離、変色、錆発生の原因となります。
- 取付場所の強度をあらかじめご確認の上、必要に応じ補強等の対策をしてください。

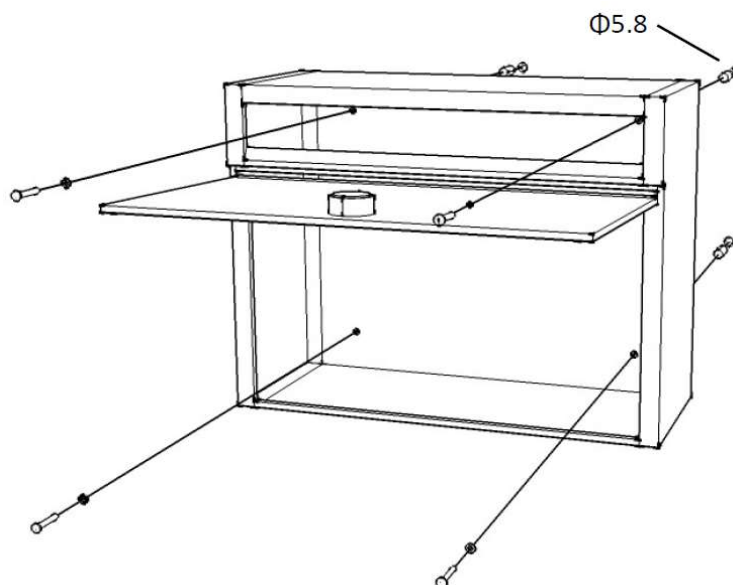
壁面への取り付け方法

○木壁の場合

- 1 取付面に、取り出し蓋を開けた状態で本体を押し当て、下方の1つの取付穴を座金を介した木ネジで締め付けてください。
- 2 本体の水平を確かめて、もう一方を締め付けてください。
- 3 投入口より上2カ所を締め付け、本体を固定してください。

○ブロック壁・集合住宅等の場合

- 1 取付面にポストの設置位置を決め、取付け穴位置を決めてください。
- 2 $\Phi 5.8$ mmのコンクリートドリルで深さ30~33mmの穴をあけてください。
- 3 プラグを挿入し、壁面いっぱい打ち込んでください。
- 4 取り出し蓋を開けた状態で本体を押し当て、下方の取付け穴から順次、座金を介した木ネジで締め付け固定してください。



※DP-275ポールセットや別売りのDP-38Pポールに取り付け使用の場合は、DP-38Pポールの取付説明書をあわせてご確認ください。

お願い

- 外壁を吹き付け塗装で仕上げる場合やタイルの酸洗いをする場合、その後に取り付けてください。製品に外壁塗料・化学薬品・鉄粉・塩分・粉塵などが付着しますと、錆や変色の原因となります。そのような場合には必ず養生を行ってください。また養生テープは強粘着性のものは避けるとともに、養生テープを貼ったまま長時間放置しないでください。